

◆特集◆ 戦後50周年に寄せて ～わたしの戦争体験～

あの日
のことを

忘れまい



昭和15年ごろの手野の田園風景（右は県道海老津～原線）
故田中睦生（西高陽）さん編「ふるさと岡垣」から

終戦50年目の夏が再び。

[時代の生き証人たちが語ってくれた]

昭和20年8月15日ー終戦。

長い戦争が終わりました。戦中は、物はなく、食料もない。とにかく何もない時代。終戦直後もやはりそう。しかし、次第に物は豊富になり、戦後生まれが過半数を占めるようになりました。それに伴い、戦中、戦後の苦しかった時代の話は“風化”しているかのように思われます。

もうじき8月15日を迎えます。この日には特別な思いを寄せる人たちがいます。戦争に行った人。戦場で夫や父親が亡くなった人……。今年、終戦から50年目。改めて戦争の悲惨さを顧み、平和の尊さを再認識する意義深い大きな節目にあたります。

風化しつつある戦争体験を着実に後世に伝えるため戦争体験記を老人クラブ連合会や遺族会などを通じて募集したところ多数の寄稿がありました。その中から数編を紹介します。



戦争未亡人としての私の戦後

昭和17年、戦死の公報を届けてくださった役場の方々には大変お世話になりました。吉木部落で最初の村葬の日、喪主の私（二十七歳）と娘（四歳）が焼香をすませた直後、空襲警報が鳴り渡り、一緒にまつられました九柱の家族は焼香もなしに直ぐに散会しました。

一人息子を亡くした姑は、その後も国防婦人会長として出征兵士の見送りに海老津駅まで、皆さんとデコボコの砂利道を歩いて、駅の坂を登っていました。

いよいよ納骨の日、喪服をタンズから出そうとして、たまたま引出しにすがって泣いた母。台所の隅でこみ上げて来る悲しみに私も座り込んでしまいました。外から娘が元気に駆け込んで来て、「お母さん」と言ったとき、大声で泣きだしました。それは訳も分からず、恐怖に近い泣き方。肩を抱きよせましたが、なかなか泣きやみません。「ああ・私はこの子の前で泣いてはいけない。強くならなければ」とこの時、決心しました。

当時、教職にあった私は、八幡での教え子が沖繩の石垣島にいて（今はお孫さんにも恵まれていますが）、友人のほとんどが戦災で、みんな亡くして学業も進まず」とくわしく話してくれました。恩師

も広島原爆で亡くなられ、また若い先生方が次々に戦死され、あのように素晴らしい頭脳を殺してと国の前途を不安に思いました。

女生徒には長刀を教え、英語の先生は礼法を、隣組は竹槍訓練、バケツ放水。その当時の木製の椅子もまだ健在です。空腹で立ちくらみして、思う半分も仕事は進まず、ついに結核の憂き目。先生方や両親にも心配ばかりかけていました。娘はお山の学校に行くのだと篠栗の教員保養所に姑につられて見舞いに来てくれましたが、あとの見送る時のつらいこと。この子は、父をなくし、今また、母もかた。幸いに周囲のおかげで、現在、四人の孫たちも成人しました。

以前、小学校四年生と一年生の孫をつれて広島原爆記念館を見学しました。その夜、「おばあちゃん、おふとん寄せてもいい？」と四年生の孫。「そうね。恐ろしかったね。もう二度と起こってはならないね。」と話して夜が更けました。

教職を退いて岡垣町遺族会の世話人になって、初めてみなさんの永い日々のご苦労が分かかってきました。前岡垣町遺族会長広渡氏、婦人部長平田さん、会計四十余年の安藤さん、そして婦人部のみな

さんの支え、世話人の方々のご協力。この方々のご尽力は夢にも忘れてはなりません。ご子息に戦死されて寂しく後継ぎもなしに心細いご両親、未亡人も生活の不安、子育ての苦労などそれぞれ心の歴史を抱いて語り尽くせぬままに一人減り二人減りしていきます。私もその日近しと思われず。

戦後五十年経ったからお祀りをやめてはなりません。老人が一途に国体護持のため後に続く者を信じて戦い続けてくださった。戦場に立った方々のご苦労、無念さを今さらに鮮明に思い起こして、戦争の恐ろしさ、惨さ、原爆、毒ガスなどの非人間性。改めて恐怖の世界を知ってこそ平和の尊さをかみしめていけるものと信じます。

いつまでも語りつがれていられるようにしたいものです。役場の入口に戦没者の忠霊碑が建っています。その足もとに取り巻くたくさんの戦没者の名前。時には参ってやってください。軍恩連盟の方々のご協力もあります。いつも清掃されています。お花も折々の季節の花を捧げてくださっています。いつも感謝しています。



門司 満江さん (79歳・吉木)



戦時下、尋常小学校0年生の田植え実習（昭和11年ごろ、吉木）



平和の有難さをしみじみ感じます。

昭和20年3月ごろ、私の勤めていたM会社（旧満州奉天市）は、男子職員がほとんど招集され、機構改革を余儀なくされた。私は昭和18年教育招集を受けたので、その時は免除された。

その一年ほど前、親友F君が招集され、見習士官となり、奉天に立ち寄ったことがあった。その時、彼は「日本は既に兵器も燃料も底をついているので、あと一年もたないだろう。」と言った。私は「絶対、そんな事はない。」と口論になったが、今度の招集で大変な事態になるのではないかと思われた。

当時、内地（日本）では食糧に大変困っていたらしい（後からの話では）。しかし、私たちは普段と変わらない生活で、どこで戦争が行われているのだろうと思う状態であった。

この頃、米軍の爆撃機（B29）が度々、飛来していた。私たちは

初め日本機の練習と思っていたが爆弾を落とされて、それと知った。奉天駅近くに直径五メートル位の穴が開いていたが、爆弾の跡と知らされ驚いた。

戦況は日本の不利な状況が伝わっていた。しかし、ある高官の講演で「日本がいくら攻められても、マッチ箱位の爆弾とそれを運ぶ爆撃機があれば、最後には絶対勝てる。」と言う。私たちは半信半疑で聞いていた。

8月ごろ「ソ連軍が、いつ攻めてくるか分からない」というので、各所に壕を掘りはじめた。その付近を通る人たちは誰彼（だれかれ）の区別なく（中国人も勿論）使役に用いられた。日本人のすべての男子は全滅するまで戦おうという気概であった。13日、社宅の女、子ども（弟たちも一緒）は、ソ連軍との対決に備え、錦（きん）州（奉天から離れた農村地帯）に疎開した。

8月15日正午、天皇陛下の玉音放送により終戦を知った。私たちは一瞬耳を疑い、ただ口惜しく泣くばかりだった。二、三日後、奉天に突然ソ連軍が侵入してきた。初めて見るソ連兵は赤い顔、大きな身体で、ただ恐ろしく思うばかりだった。そして、何日か経ってソ連軍の使役に行くようになり、ソ連兵にも幾分なれてきた。ソ連

軍は約半年かけて、会社の機械、設備をすべて撤去し、持ち去ったという。

ある日、会社の用件で街に行っていた時、ソ連兵に両手を挙げさせられて、金を奪われた。また、家の中に侵入され品物を略奪されたこともあった。ソ連兵の中には女の人を見れば、所構わず暴行するような者もいたという。近所の女の人は二階から飛び降り逃れたとのこと。女の人は髪を切り坊主頭になり、男装をして警戒した。しかし、乳の盛り上がりで見破られることもあった。ソ連兵の言うことをきかず銃殺された人も多い。また一方、中国人の略奪も多くなった。それで社宅の男子は団結し、警戒にあたった。夜は数か所に分かかれ、服を着たまま仮眠する状態で、おちおち眠れない。そんな日が毎日続いた。

10月ごろ、疎開していた弟たちが帰ってきた。私たちは駅まで迎えに行き、中国人の略奪を防ぐため、人垣を作り、女・子どもを守った。この時ほど敗戦の悲惨さを味わったことはない。

11月、会社は解散となった。その後、社宅内でI課長とU氏が売店を開いたので、私もそこで働かせてもらった。私は毎日店に泊まり、朝早く自宅に帰り、洗濯、朝

食を済ませ、再び店に戻った。朝、おかずがなく塩を振りかけて食べることが多かった。しかも米の飯は食べられず、こうりやんや粟を食べていた。

こんな生活が続くうち、昭和21年6月、急に日本に引き揚げることになった。一週間のうちにその準備をしなければならず、私たちは、売れる物はすべて売った。しかし、足許（あしあと）を見られ、二足三文であった。身回り品をリュックサックに一杯詰め込み引き揚げの準備をした。現金は一人当たり三百円（日本円）しか持てなかつたが、私たちには、到底およびもつかず他人の金も預かってやった。

私たちは、胡芦島から引揚船に乗り、6月30日、宇品港（広島県）に到着。やっと日本に帰ることができました。

このように、「敗戦の悲惨さ」を体験したことが、昨日のこのように思い出され、平和の有難さをしみじみ感じる終戦五十周年であります。



富田 正雄さん
(74歳・鍋田)

八月十五日終戦。それは悲しみと憤りの思い出

吉木小の「はんの木」

時の学校教練を語る

「目標／＼はんの木の右から三本目／＼進め／＼」校庭の西側に繁っている「はんの木」は小学校生徒の分列行進の目標であり、青年学校軍隊教練の時の射撃目標など訓練に常に利用されていた事を思い出します。「はんの木」に戦時学校教育を語らせると「五十年前から真実を」語るでしょう。

家を後に軍隊に入り戦地へ
湯川山背景に故郷に別れ
原や内浦から軍隊に応召される人は、区民総出で日の丸の小旗を持ち内浦小前の孝子記念碑が農協前の所で欲送の式がありました。たすきを掛けて勇躍。兵営または戦地へと出発の決意を述べる人は涙も見せず、凛々しくありました。しかし、見送る人の中には「最後の別れ」と涙をおさえる人も多かったのです。私も同様、昭和18年正月過ぎ、学徒動員で欲送され、車もない砂利道八キロを海老津駅まで家族と歩き、ホームで涙の別れを告げました。欲送式の時の私の挨拶を思い出すと本当に恥づかしい（侵略戦争参加の意識もなく）やりきれない（学業半ばは青春を捨て）悲しい（故郷との別れ）と、いくら反省しても足りない

い気持ちです。
出陣歌が語る青年学徒の真実
父母の愛を断ち切る戦争
私たちの学徒出陣の時の歌集の中に
大いなる母の慈愛を身に負いて
いざ皇国にいのち捧げむ
たちねの御親の深き御心は
かかる時にぞしのばれにけり
とあります。
「国のため」とは言え、苦勞して育てて頂いた父母の愛情こそ痛感しているのが私たちの真情でした。しかし、時の教育指導はそれを断ち切る如く大学の副総長は學生に対し
一筋に君の御為にはげめかし
命も名をも返りみなくにと叱咤激励したのであります。
戦地と軍隊では
青春を真空地帯に追い込む
入隊したら裨以外衣服靴まですべて支給されるが「体に合わぬ」と苦情を言う。「天皇陛下御下賜のものに文句を言うな！貴様の五体と足を合わせよ！」と軍隊思想の強制であります。班の中で一人が失敗すると全員が叱られ、時に体罰を受ける。私の部隊は満州の北西部ソ連との国境地帯で、有名なノモンハン事件のハイラルと

言う場所。冬は体が凍る零下三十度以下、夏は灼熱 摂氏四十度にもなる。その中で体罰を受けながらの猛訓練、筆舌に尽くし難い状況でした。それでもすべてが「君に忠、生命を国家に捧げよ」の中で消化される、まさに「真空地帯」で生かされていたのであります。
魚雷攻撃で沖繩決戦に合わず
奇跡の生還
昭和20年4月、米軍が沖繩本島に上陸し、決戦場となつてからソ満国境の部隊は、戦線後退し、6月になると関東軍司令部は「ソ満守備隊は最後の一人まで満州を守れ！」と督励し、一方では司令部とその家族は秘密裏に後方に退いていたのであります。満州残留孤児の悲惨極まりない一生はここから始まったのです。戦争を起した軍閥と財閥が満州開拓の美名のもと、行った戦争責任を追求するともに犠牲になつた開拓農民のことをわすれてはなりません。
6月初旬、私も青年将校に対して、いよいよ本土決戦要員として
転属命令が出され、ソ満国境から朝鮮清津港經由で沖繩に向かうはずが、出港の時、敵潜水艦の魚雷攻撃のため、日本海を予定どおり南下できず、ついに沖繩決戦に間に合わず、日本内地部隊にと再編

されたのです。人生とは本当に奇しきもの。魚雷攻撃に遭ってなければ、早く沖繩決戦に行き生還なきものであつたと思います。
今の私にとり、戦後五十年毎年、6月の沖繩決戦記念日と8月の広島・長崎の原爆記念日は非常に身近な悲しみと憤りの思い出であります。
国破れて山河あり
豊かな自然が残った故郷
敗戦の日を迎えた時の私たち国民の様々な表情は、今更述べる必要はありません。10月下旬、村に復員すると、小学校の同級生、親友が多く戦死し、親戚の者が広島と長崎で原爆に遭い惨死していったのです。墓前に参り号泣する日が続きました。海岸や山や村内所々に軍隊や村人が作つた陣地跡や壕がありましたが、幸いに「国破れて山河あり」のとおり、村の豊かな自然と純情な戦後の守りで戦った人々があり一縷の望みがありました。

新青年団の結成へ
戦争犠牲者へ報いるために
私は、復員し、戦後復興は生き残つた青年の役割であると痛感。敗戦直後、米軍により解散させら

れた青年団を新日本の民主的平和的發展のために再結集すべきだと感じ、東奔西走しました。幸いに青年学校は残っていましたので、先生たちに相談し各區を廻りました。米軍福岡司令部から「軍国主義者による再建か？」と忠告を受けたたりなど紆余曲折はありましたが、「岡垣村青年団」を昭和21年秋に結集することができました。結成記念に吉木小校庭で村内各區對抗運動会を開催しましたら盛大に力強いものになり、敗戦で打ちのめされていた新青年運動の復興再出発となつたのであります。
戦後五十年を迎えるにあたり、新生岡垣町の歴史の中で、今は老人クラブのお世話をする一員として思い出の一部を書き留めました。



花田 守さん (72歳・野間二)



昭和20年4月、ソ連軍の戦線に接して（右側が花田さん）

福岡大空襲

昭和20年の年が明けると、日本の戦局は、日増しに敗色が濃くなってきた。当時、私は高陽炭鋳三坑（現在の西山田区）に住んでいた。十九歳だった。

3月の東京大空襲に続いて、6月には福岡の周辺にも敵機が襲来するようになっていた。そのころには、夜といわず朝といわず、警戒警報と空襲警報のサイレンが鳴り響くようになった。その度に私たちは、身一つで近くの坑口へ避難した。坑内なら、大勢の人が一度に逃げて来ても奥へ奥へと下が



高陽炭鋳事務所付近

頭上に敵機が

って行けるので都合がよかった。私たちは、坑内を防空壕代わりにしてきた。坑内に逃げ込めば、あの不気味なサイレンの音も聞こえない。人々は坑口の近くに身を潜め、警報が解除になるのを待つ。解除になるや、ぞろ

ぞろと坑口から出て来て我が家へと急ぐ。そんな日々が続いていた。だが、6月のその日はいつもと違っていた。いつも警戒警報から空襲警報に入るのに、その日はいきなり空襲警報のサイレンが鳴りだし、それはいつまでも鳴りやまなかった。私たちは坑口へ急いだ。避難してくる人は、いつもより多く、人々は、押されるように奥へと下っていった。坑内の途中には坑内事務所がある。皆は、坑内事務所に集まった。ほんやりとした裸電球の下で、大勢の人々は不安な顔で身を寄せ合っていた。外はもう夜になっていている時間だった。なかなか解除にならず、人々は不安げに口数も少なくなってきた。その時、伝達の一人が「今、博多の街が空襲でやられるぞー！空が真っ赤になって燃えよる」と知らせると、人々はざわめき出したが、ここにいれば身の危険はあ

るまいと思っただか、あまり動く人はなかった。だが、「坑口に一発落とされりや、おれたちや生き埋めたい」と誰かが自嘲気味に言うとう、人々は不安になったのか、次々に坑口へ向かい始めた。私もその人たちに続いて坑外へ出た。外は、すっかり夜の闇に包まれていた。サイレンの音もしない静まり返った闇の夜空の一点だけが

真つ赤に染まっていた。「博多が燃えている！」私が幼時のころまで住んでいたあの博多の街が燃えている。私は、呆然とそこに立ち尽くしていた。

八幡大空襲

福岡大空襲の次に、敵機は八幡に襲来した。その日は正午ごろだった。福岡の空襲の恐怖から覚めやらぬ人々は、またもや急な空襲警報のサイレンに、とるものもとりあえず坑口へ殺到した。私は一足遅く家を出た。その時、頭上から金属音に似た鈍い音が聞こえてきた。空を見上げると、高度上空を、奇妙な形の飛行機が編隊を組んでこちらに向かってくる。とつさに草むらに身を隠した。敵の飛行機だった。十機ほどの敵機が頭上を八幡の方向に向かっていった。その時、編隊から一斉に爆弾が投下された。黒く細長い物体のそれは、少しななめになりながら地上に落ちていった。その後、「ドカーン、ドカーン」というものすごい音とともに八幡の方面からもくもくと黒煙が立ちのぼった。地上から敵機に向かって高射砲が打ち上げられたが、上空の敵機までは届かず、空しく白煙が中空に漂っていた。

その時だった。私の頭上の前方で、編隊から遅れた一機の敵機に、ものすごい速さで飛んできた日本の戦闘機一機がそのまま敵機に体当たりしたのだ。それはまるで怪鳥に挑む小鳥のようだった。翌の日の丸もはつきり見えた。二機は瞬時に黒煙と炎を噴き、破片となって落下していった。雲一つない青空に繰り広げられた壮絶な光景に私は息をのんだ。誰かにこの事を知らせたいと、周囲を見回したが、辺りに人影は見当たらなかった。再び、上空に目をやると、今の出来事を証明するかのように薄く散った黒煙がその場に漂っていた。

あとがき

あの福岡、八幡の大空襲では、大多数の人々が焼夷弾によって死亡し、負傷されました。

戦後五十年に当たり、私が目撃した事実を書きました。戦争を知らない若い人たちに、平和のありがたさを大事にしてほしいと切に思います。



西村 光代さん
(69歳・緑ヶ丘)

八月十五日前夜の思い出



私は敗戦の色濃い昭和19年7月、二回目の召集を受け、同年8月、積兵団第五部隊に編入され、鹿児島県岩川町に駐屯しました。積兵団は本土決戦の最前線である、志布志湾防衛の任務をおびていました。積兵団第五部隊の役割は、三か中隊編成の独立速射砲大隊で、対戦車攻撃が主目的です。我が部隊は岩川町小学校に駐屯して、毎日防衛訓練に励んだのであります。私は電工伍長として、他の技術下士官四名と同居でした。部長は予備役少佐でしたが、その風貌は勇ましく、声高く、各中隊長を、睥睨していたようです。私の

任務は速射砲牽引車の電源である二十四ボルトのバッテリーの保守でありました。ある日、部長は自ら牽引車を運転するということ、私も命により同乗しました。何分、部長の荒々しい運転で、長時間小学校の

校庭を乗り回すので、蓄電池の端子が弛み、スパークし始めました。私は端子をしっかりと抑えたままで、車はどんどん校庭を回る。私は振り落とされなにかと全く生きた心地がなかったです。20年2月、五部隊は南下し、肝付郡串良に駐在、積兵団の戦列に参加し、防空壕の構築に日夜励んだ。そのころフィリピン・レイテ湾では、連日のごとく日米の決戦が繰り返されてきたが、いつも「敵艦撃沈〇隻、我が方の損害軽微なり」の新聞を見るとき、日本は有利に展開しているかと誤解していました。以下はその後の体験の数々です。

任務は速射砲牽引車の電源である二十四ボルトのバッテリーの保守でありました。ある日、部長は自ら牽引車を運転するということ、私も命により同乗しました。何分、部長の荒々しい運転で、長時間小学校の校庭を乗り回すので、蓄電池の端子が弛み、スパークし始めました。私は端子をしっかりと抑えたままで、車はどんどん校庭を回る。私は振り落とされなにかと全く生きた心地がなかったです。20年2月、五部隊は南下し、肝付郡串良に駐在、積兵団の戦列に参加し、防空壕の構築に日夜励んだ。そのころフィリピン・レイテ湾では、連日のごとく日米の決戦が繰り返されてきたが、いつも「敵艦撃沈〇隻、我が方の損害軽微なり」の新聞を見るとき、日本は有利に展開しているかと誤解していました。以下はその後の体験の数々です。

応召兵の装備

そのころ、三、四十歳位の新兵さんが各部隊に配属されたが、小銃は持たず、帯刀は竹光の哀れな姿には全く驚きました。

空襲に逃げまどう

沖繩戦の終局のころと思うが、我々の宿泊していた民家もよく攻撃を受けた。弾がシュツ、シュツと近くに飛んで来る。襖の倒れる中に畳に伏せて、しばし、沈黙。また、ある時、演習時に敵のグラマン数機が襲いかかり、我々四五名が田んぼの中の稲積の中に頭

を突っ込んで、しばし、生きた心地なし。

兵器率領で水俣や鹿児島へ

水俣の帝國チツソ(株)でガスを購入し、二十キログラム余りのボンベを担いだ時は、さすがに重かった。また、鹿児島に着いた時は、ちよと空襲で街は火の海で、目的を果たさずに帰隊したことを思い出します。

八月八日原爆投下後の

広島を通過

二泊三日の外泊許可を受ける。鹿児島本線久留米駅で空襲に遭い、慌てて貨車の下に隠れる事しばし、山陽線己斐駅(広島県)には頭に包帯を巻いた人々が数十人たむろしているのを見た。広島駅では二時間余り停車、川にはまだ数人の死骸が浮かんでいたのが、今でも臉に映る。

八月十五日、肝を冷やす

中隊長は兵隊を全員集合させ、我々のド肝を抜いた。中隊長の言葉「戦争は終わったが、お前たちの命を俺にくれ。今から敵陣に切り込みに行く。」一同、粛として声なし。しばらくして解散。これも若い中隊長の激怒の表れでした。



川原 辰義さん (79歳・高陽)

白米、缶詰の馳走

8月15日から一週間は倉庫に蓄えてあった白米、缶詰などは大盤振る舞いで、兵隊たちは満腹した。

銃後の食料難

8月24日召集解除。25日家族の待つ直方へ帰来する。帰郷してまず、驚いたのは食事。主食のカポチャに、おかずもカポチャ。カポチャばかりでやり切れん。これでは軍隊の食べ物の方が良かったと改めて感じた次第です。

しかし、私は生きて帰っただけでも運がよかったと思います。亡くなった多くの戦友たちのためにも、と思いこの五十年間がんばってきました。

注1 睥睨：あたりをにらみつけて威勢を示すこと。

注2 竹光：竹で作った刀。

注3 稲積：田んぼの中に稲を積み上げたもの。

注4 兵器率領：工場などに兵器を取りに行くこと。

戦争をなくしてくれ



そこには、人格も存在しない。ただ、あるのは豹変したみにく

ソ連軍の満州進攻は、在満州邦人の男子だけでなく、女、子どもまで悲惨な焼きゴテをあててしまった。そして、祖国がありながら祖国に帰れない残留孤児という哀れな後遺症が今もなお、痛々しく続いている。

『もう、いい加減戦争をなくしてくれ。それが生き残ったお前たちの任務だぞ、たのむよ。』

今年には戦後五十年の節目。祖国の安泰を願う散華した先輩たちの尊い礎の上に、今日の平和と繁栄が築かれていることを肝に銘ずる年であり、心の底から「不戦」を誓う年である。

昭和20年8月9日、午後6時20分。その日は雲が低くたれこめ、陰うつな空模様だった。

突如、その雲間から二機のソ連偵察機が綏芬河上空にあらわれた。それから二時間後、満州里、綏芬河、黒河、三方面のソ連国境を突破し、機甲兵団を先頭にソ連の大軍が満州に進攻してきた。

手薄な関東軍は不意をつかれ、戦意をそう失、戦わずして敗れた。急転直下、満州全土は無法地帯と化し、無抵抗な満州邦人に対する屠殺、略奪、レイプが連日連夜繰り返され、生き地獄の様相を呈した。

日本軍による南京大虐殺は広く喧伝されているが、なぜか、満州大陸で展開されたソ連軍の残虐非道ぶりについてはあまり知られていないのも疑問が残る。

人間の姿だけである。それなのに世界のどこかで戦争がくり返され血が流されている。

戦後五十年 平和を考える集い

岡垣町は昭和61年に「核兵器廃絶平和の町宣言」を行い、以来、子ども向けの映画の上映や庁舎内でのパネル展示を行ってきました。戦後五十年を迎えた今、世界は超大国が対立していた時代が終わわり、'90年代は民族的衝突の時代の幕開けによる難民流出が問題化しています。

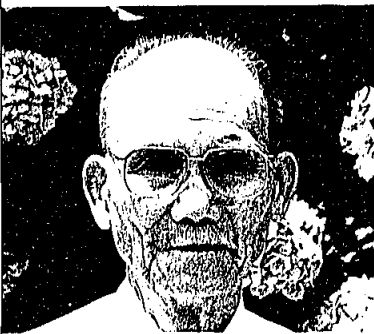
そこで今年には、その難民問題を取り上げ、今一度平和の尊さを訴えることを目的に「戦後五十年平和を考える集い」を行います。実際に難民救援のために現地で活躍された三人をゲストに迎えたトーク形式の集いですので、ひとりでも多くの町民の皆さんのお越しをお待ちしています。

とき 8月6日(日) 13時30分から15時30分まで
ところ 岡垣サンリーアイ
テーマ 『難民救援へのチャレンジ』

最近まで難民キャンプにて救援活動に従事されていた日本赤十字社職員3名によるトーク形式の集いです。

問い合わせ 役場町長公室へ

みませんか。

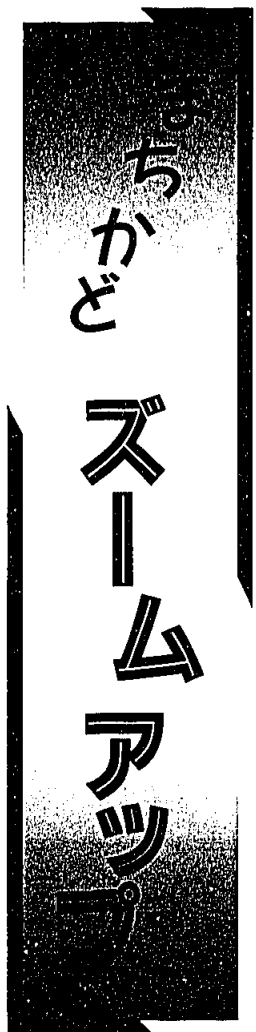


豊岡 猛さん (79歳・旭東)

文化財ウォークラリー、歴史フォーラム

—岡城築城500年記念事業—

昔、岡垣にもお城があったなんて、大発見!



このコーナーでは、写真で町のいろいろな出来事をお知らせしています。みなさんのまわりの出来事・催しなどがございましたら役場地域振興課へ広報おかがきまでご連絡ください。



第1チェックポイントの高倉神社、毘沙門天像
問、毘沙門天が踏みつけているものは何?
—答 天の邪鬼

昔、岡垣にも城がありました。吉木小学校の近くの小高い丘の上にあったもので岡城と呼ばれていました。遠賀郡一帯を支配した麻生家信が建てたと言われ、今年で築城五百年を迎えます。

6月10日、築城五百年を記念し、岡城築城五百年記念事業準備委員会の企画、教育委員会共催による「文化財ウォークラリー」が行われました。

初夏の晴天の中、参加した三十九チーム総勢百八人は、岡垣サンリーアイを次々にスタートし、約四キロのコースを歩きました。

途中、毘沙門天像や岡城頂上など高倉から吉木にかけての文化財十か所に設けたチェックポイントでは、文化財にちなんだ問題があり、観光案内板で調べたりして、参加者たちは新しい発見をしていました。

「岡垣には十年以上住んでいますが、岡城跡などこんな

にたくさん珍しい史跡があるとは知りませんでした。子どもの方が元気がよくて、大人は、ぼてました。でも、いい汗をかきました。」と家族で参加された岩永功さん(旭南)は話してくれました。また、優勝した「まよっちゃったチーム」の尚山幸奈ちゃん(山田小学校六年)は「きつかったけど、がんばったかいがありました。岡垣の昔のことが少しわかりまし



「うん、問題が難しいな。」
(隆守山「岡城跡」山頂にて)



午後の歴史フォーラム。4人のパネラーが中世の岡垣を語りました。

た。また、こんなイベントがあれば参加したいです。」と元気一杯に答えてくれました。

また、午後からは岡垣サンリーアイで「歴史フォーラム」が開かれました。岡城築城当時の中世動乱期の遠賀郡一帯の歴史をテーマに四人の講師が、互いに語り、意見を交換しました。

この日は、第二土曜日で学校は休みとあつて、多数の子どもたちや親子連れが参加し、町の歴史に触れる楽しい一日となりました。

文化財ウォークラリーの結果は次のとおりでした。

1位	まよっちゃったチーム	(メンバー) 徳沢由佳・石兼真理子 尚山幸奈
2位	どんぐりチーム	(メンバー) 上松恵子・上松和義 上松まさ子
3位	今澤チーム	(メンバー) 今澤文雄

(敬称略)



みごと優勝した、元気一杯の「まよっちゃったチーム」のみなさん。



▷ロープに添ってひとつひとつ丁寧に植えていきました。



待ちに待ったプール開きに大喜びの児童たち。

秋の収穫が待ちどおしい

—吉木小学校、田植えで体験学習—

6月26日、吉木小学校（松本司校長）の5年生57人が体験学習として田植えを行いました。

約7アールの田んぼに昔ながらの手植えで、1時間半程かけて、もち米の稲を植えました。児童のほとんどが初めての体験ということで、泥の感触に少し戸惑っていたようですが、大人も感心するほど上手な児童もいました。また、国際交流員アレックスさんと友人のスウェーデンから来たレアナさんも田植えに初挑戦し、日本の田植えに興味津々、楽しそうでした。

実ったもち米は、12月にPTAと児童たちで、もちつきをする予定だそうです。

「田植えは初めての体験です。泥の感触が『ぬるっ』として気持ち悪かったけど、いい経験になりました。この稲を大切に育てて、秋に収穫するのが楽しみです。」と山本康平くん（5年2組・塚原）は話してくれました。

プール開きで、夏本番

—山田小学校でプール開き—

6月16日、小学校五校の先頭をきって山田小学校（太田俊夫校長）でプール開きがありました。この日は晴天に恵まれ、気温二十八度と水泳には絶好の日和でしたが、水温は、二十三度と少し冷たく感じるようでした。それでも、参加した六年生百二十四人の児童たちは元氣一杯、待ちに待ったプール開きに大喜びのようでした。

「やっぱり夏はプール。気分は、最高!」「今年こそは、二十五メートル泳げるようになるぞ!」などと口々に歓声をあげていました。

この日は、国際交流員アレックスさんも見学に来て、児童たちは、声をかけられたり、握手をしてもらったりと周りを囲んで大はしゃぎしていました。



「プールはどうでしたか?」アレックスの質問に明るく答える児童たち。

園児たちに火災の恐ろしさを教え、火災から身を守るための「火災予防・避難訓練教室」が6月9日、遠賀郡消防署の協力により、えびつ幼稚園（早川重子園長）で行われました。

動物村の消防士の活躍を通して火災の恐ろしさを描いたアニメ映画を見たあと、火災警報機のベルの音とともに避難訓練開始。先生の指示で園児たちは一斉に教室から飛び出し、園庭に



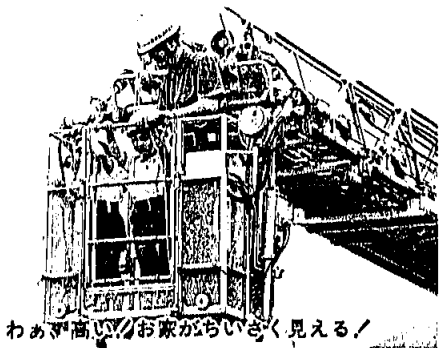
避難訓練開始。さあ逃げる。

ほく、大きくなったら 消防士になるんだ

—えびつ幼稚園「火災予防 ・避難訓練」—

避難しました。園児たちの素早い動きに消防署の人たちも感心され、ご褒美に十人の園児たちを消防はしご車に乗せてあげました。

「はしご車に乗ると、お家がちいちゃく見えちゃった。おもしろかったです。」「火事は怖いけれど、大きくなったら、消防士になって人助けをするんだ。」などなど園児たちは、みな大喜びでした。



わあ高い! お家がちいさく見える!

わがやの アイドル



田中 真道くん (7か月)

車とおふろが大好き。
お父さんと2人でドライブに行ける日は、いつかな？
元気いっぱい育ててね。

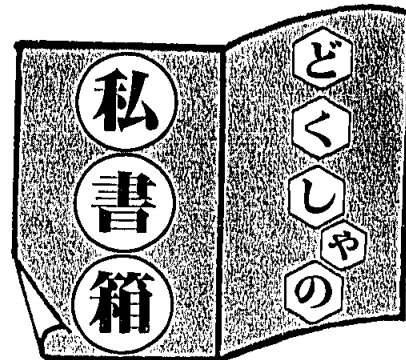
母 野百合 (百合ヶ丘)



小野 秀敏くん (1歳11か月)

大家族の中ですくすく育ち、愛情を独り占めしているわんぱく坊主です。これからも元気にのびのび育ててね!!

母 美和 (東黒山)



参加する人も読者人もみんな友だち。このコーナーでひとつになって楽しもう。「どくしゃの私書箱」は、そんな願いを込めた読者のページです。

楽しかったこと、悲しかったことから地区の活動まで、また、イラスト・4コマまんが・俳句・川柳などの作品もお待ちしています。

応募先/岡垣町大字野間697-1 岡垣町役場地域振興課・広報「どくしゃの私書箱」係

※応募はがきには「住所・氏名(紙上匿名可)・年齢・電話番号」をお忘れなく。

お父さんを 大切にしよう!

『お父さんペアペア絵画展』

会社勤めで一生懸命のお父さん。家庭でのお父さんの存在をついつい忘れてしまいそうですが、こんな中で、父の日のために描いた岡垣中央幼稚園55人の園児のみなさんによる絵画展が遠賀信用金庫野間出張所で開かれています。

名付けて、「お父さんペアペア絵画展」園児さんとペアルック姿のお父さんは、とてもうれしそう。思い思いの絵を切り抜いた貼り絵がとても鮮やか。個性的な衣服に仕上がりに、お父さんもいつもより素敵です。寄り添う園児の皆さんも、ちょっとすまし顔。おそろいの服で楽しそう。

展示は8月31日まで「おんしん野間出張所」で行っています。



写真と原稿は小田幹夫(遠賀信用金庫)さん提供

雲海や山の頂き浮せをり
鎌倉エイ子

木綿間俳句会

夏雲の田毎にうつり水たひら
児島 清子

咲き競ふ四龍の坂を郵便車
寺田タツ子

乾杯のグラスに映ゆる新樹光
外村 次子

岡垣乳垂俳句会

保育所に迎へ来る頃合飲の花
永野 和子

一般の人の作品

柿若葉天蓋のごと古井あり
門司 敏子

堤防の川風涼し乳母車
杉山久美子

遠まきに子らさわぎ居り青大将
占部 幸子

さようなら揺れる少女の耳かざり
中村 ナヲ

岡垣川柳会

夏雲雀声の十色に山襖
岩崎 要子

湯上りの母のうたたね宵螢
松井トモエ

磨崖仏千年が過ぎ棘がすぐ
佐藤 昭子

地平岡垣俳句会

国東の岩みな仏植田光
岩崎 要子

アルバムをひとり見おれば亡き
母への想い広がる小雨降る夜
川内 春枝

夏草の残み視界をさえぎりてゲ
トボールは声のみ聞こゆ
西村 光代

父母と弟の墳墓の地なり吾もまた
海鳴り響くこの地に果てむ
高橋キヌエ

キノコ雲に被爆し早やも五十年
怨念永遠に消すなよ日本
前田 四郎

川柳

短歌

青葉短歌会

検診が嫌いで不安溜めている
小田 和彦

小欲張り頃合逃がし元も消え
高浜あきら

しみじみと話せば絡む糸が解け
伊達 節子

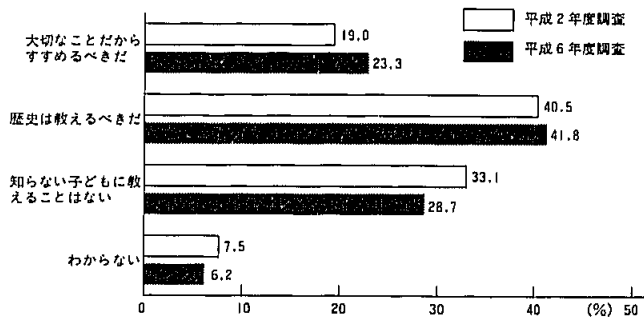
みんなの幸せを願って

差別的な発言があった場合あなたならどうしますか — 人権(同和)問題意識調査の結果から —

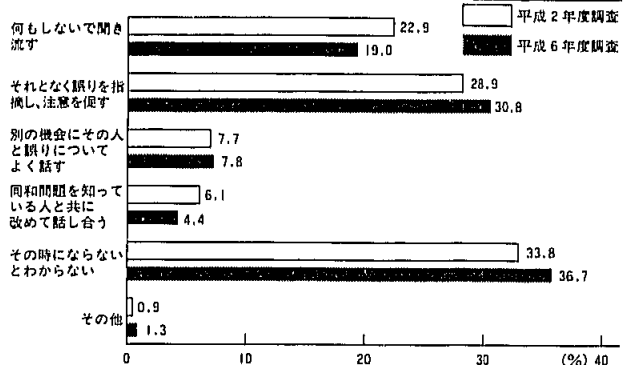
問 学校の教科書にも部落問題がのせられ子どもたちが、学校で同和教育の学習をしていることをあなたは知っていますか。

小・中学校における同和教育のあり方

小・中学校で実施している同和教育は、それ独自の目的をもつと同時に、住民への啓発活動とも密接な関連をもっている。「学校で同和教育の学習をしていることを知っている」と回答した人は全体の半数である。全体的に若い世代ほど割合は高い。「それについてどう思うか」の問に、「大切なことだから進めるべきだ」「歴史は教えるべきだ」を含めると65.1パーセントの人が同和教育の必要性を認めている。「知らない子どもに教えることはない」と否定的な考えの人も前回に比べ減ってきている。



問 友人や知人などの日常的なつきあいの中で、同和問題にかかわって差別的な発言が行われた場合、あなたはどのようにされますか。(回答は1つ)



身近な人が差別的な発言をした場合に「それとなく誤りを指摘し、注意を促す」「別の機会にその人と誤りについてよく話す」がそれぞれわずかであるが増えている。また、逆に「何もしないで聞き流す」が3.9パーセント減少している。「その時にならないとわからない」が36.7パーセントで前回よりふえている。このことは、こうした問題に対して「無関心」や「逃避的」な考え方や態度のあらわれであると思われる。

ともに考え、行動しましょう

= 同和問題啓発強調月間 =



7月は同和問題啓発強調月間で、岡垣町でも次のような催しがありました。
7月1日に人権問題講演会が岡垣サンリーアイで行われました。
講師は全国的に講演をされている長野県の中山英一さんで、差別を乗り越えるために自ら自覚し努力された、体験に基づく話を心をこめて語りかけ、聴衆はじっと聞き入っていました。
7月3日には海老津駅前・スーパー寿屋前で街頭啓発が行われ、用意した約六百組の啓発ちらし・ペンなどが配られました。
みなさん、差別のない住み良い社会をつくるため、もう一度ご家庭や地域、職場などで「人権」について話し合ってみてください。

学生の免除の基準は？

平成3年4月から二十歳学生も国民年金の加入が義務づけられましたが、収入のない学

生は、収入のない学

A ピンチのときは 免除の申請をしよう

長い人生には事故や病気あるいは失業などで収入を得ることができず、保険料を納められないなど、思わぬ困難にあうこともありま

す。こんなときのため第一号被保険者には保険料の免除制度があります。免除は、所得が低く税金が課せられていないなどの、一定の基準にあてはまっている場合に認められます。

余裕ができたなら追納しよう

免除を受けた期間は年金を受ける場合の資格期間にはなりませんが、将来、老齢基礎年金を受けるときは年金額は保険料を納めた場合の三分の一となってしまう。

うなことですか？

除の相談をしましょう。

国民年金保険料の免除制度について教えて

年 Q & A 金

Q 現在、失業中のため自分の国民年金と

息子の国民年金を納めるのは、困難で

す。免除制度があると聞きましたが、どのよ

うなことですか？

除の相談をしましょう。

子どものごときは、親だけのムツム?

母親準備教室で妊婦さんが言われていたこと。「町をよく歩くけど、本当に妊婦さんと会わない。子どもはほとんど生まれないんじゃない。」「一年間に二十人。」「五、六十人くらい。」——妊婦さんが感じている岡垣町の出生数です！
岡垣町の出生は?

実際の当町の出生数は図1のとおりで、平成五年は百八十二人です。図2は出生率の変化です。平成5年は福岡県は九・七、速賀郡・中間市は八・一、当町は六・四で、当町は県などより低くなっています。その順位は、県下百九市区町村中、百一位！いわゆる少子化が問題とされているのです。

ですが、出生数百八十二人なのに実際は妊婦さんの方が、二十人！とずっと少なく感じている——そんな環境が岡垣町にはあることに考えさせられます。

人と接することが少ない環境
周りに子供がいない、遊ぶ所がない、自分も近くに友人がいないなど、子育て中のお母さんからもよく聞きます。

ある妊婦さんは、近くの実家に夜行く時くらい歩いて行こうと思

図1 岡垣町の出生数

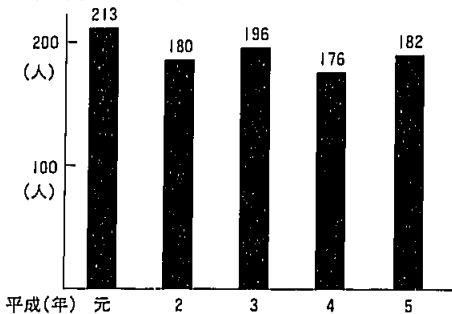
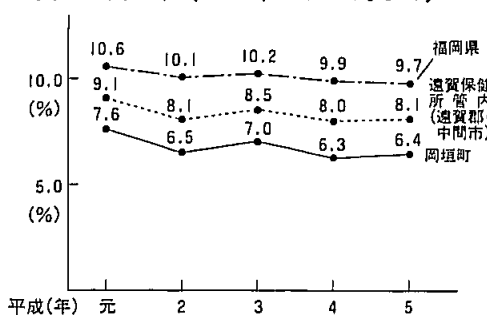


図2 出生率(人口1,000人に対して)



うけど、野犬が怖くて車に乗ると言います。近くに子供もいない、遊ぶ所もないので、車で、遊び場に子供を連れていくお母さん。近所に安心して出られる環境が少ないのかもしれない。このようなことや、車をよく使うこともあり、人と接する機会を減らし、昼間はいつも母と子だけといった、子育ての孤立化につながってはいないでしょうか。

子どものごときは地域のみんなのこと
例えば、野犬がいて歩いて出られない妊婦さん。歩く機会を増やすには、野犬を駆除すればいいというのではなく、野犬を作らない

地域の人全体のモラルが大切ではないかと思えます。

「子育ては母と子の一対一だけの関係ではうまくいかない。そこには必ず第三者(夫、家族、地域など)が必要。」だそうです。孤立した子育てで、ますます悩みや不安が増し、子育ては大変、嫌だと感じられるお母さん。相談相手が少ないと思ってもなかなか地域に自分から溶け込めないお母さん。地域でないと解決できないことも多く、子育て中の人もそうでない人も、子育てを地域で支えることを考えることが必要だと感じています。

健康対策課保健婦 林

ヘルシークッキング

食中毒から家族を守る食生活

番外編

食中毒は夏から初秋に多発しています。厚生省「食中毒統計」によると7月から9月の三か月間に集中発生しています。

原因の大部分は

- ①細菌や毒素から
- ②細菌性食中毒、細菌の増殖が原因
- ③化学性食中毒、農薬や水銀などの有害化学物質が原因
- ④自然毒食中毒、毒茸、フグ毒などが原因

※日本では①が大部分を占める。原因となる主な菌と

- ①サルモネラ菌、牛、豚、鶏などの動物、河川、下水などに
- ②病原大腸菌、人や動物の腸管内、土壌、河川などに
- ③腸炎ビブリオ、海水中、近海ものの鱈、鯖、いか、貝類などに
- ④カンピロバクター、牛、豚、鶏などのペット類の腸管内や大便の中に
- ⑤ブドウ球菌、人の鼻、喉、皮膚、毛髪、化膿した傷口などに

※発生は「家庭から」が第一位で全体の約三割を占めています。

考えられる「なぜ?」

- ①気の緩み、上下水道の整備、衛生環境改善、冷蔵庫普及などで大丈夫という過大評価は禁物
- ②味や匂いではわからない、腐敗だけでなく食中毒菌の繁殖による場合もある
- ③誤解や過信、梅干し弁当、おにぎり、お寿司などへの過信。薄い食塩濃度では期待できない

食中毒予防の基本三原則

- (1)食品に食中毒菌をつけない↓手や調理器具を清潔にする
- (2)食中毒菌を増やさない↓手早く調理、早く食べてしまう
- (3)食中毒菌を熱で殺す↓煮る、焼くなどして食べる

※なま物、なま水には、特に注意!



岡垣町食生活改善推進会

はづき 葉月のもよおし・おしらせ

町役場 ひとにいい
教育委員会 は ☎282-1211

●お電話は、よく確かめておかけください。

- 中央公民館 ☎282-0162
- 東部公民館 ☎282-0035
- 西部公民館 ☎282-7476
- 町民武道館 ☎282-6111
- 社会福祉協議会 ☎283-2940
- 岡垣サンリーアイ ☎282-1515
- シルバー人材センター ☎282-4688

ごみ〇社会を めざして②

町民課Ⅱ

以前は私たちの地域で、家庭のごみ(とくに生ごみ)は自分のところで処理をしていきましたが、プラスチックやビニールなどの処理しにくいごみが増えはじめたことにより、自治体のごみ収集に全面依存するようになってしまいました。

◎ 生ごみは自家処理を

台所から毎日出る生ごみは、町が収集する家庭ごみのおよそ三十パーセントを占めています。食料なしでは生きていけません。食料をごみにしないようにすることは可能です。

たい肥化(コンポスト)容器などの購入に町が補助金を出しています。

みんなで、"ごみ"減量化に取り組みましょう。

精霊流しの協力を

お盆に川や海で精霊流しをする環境衛生上問題があります。今年も町内各小学校の校庭に精霊流し会場をつくりますので利用してください。

とき 8月15日(火) 17時から22時まで

ところ 町内各小学校(内浦・吉木・海老津・山田・戸切)

し尿・ごみ収集 の盆休みのお知らせ

8月14日(月)・15日(火)

は、し尿汲取り、ごみ収集及び清掃センターが盆休みとなります。

なお、来客などで、し尿の臨時汲取りを希望される方は8月3日(木)までに役場町民課に申し込んでください。(盆明けての臨時汲取りは対応できません。)

また、清掃センターへの搬入は14日(月)・15日(火)は受付できませんのでお知らせします。

パーキンソン病の患者・ 家族の集いがあります

とき 8月9日(水) 13時受付 13時30分から15時30分まで
ところ 選賀町ふれあいの里センター

内容 医師の講話「病氣と上手につきあうには」

申し込み 選賀保健所保健予防課 ☎201-4161へ。8月4日(金)までに電話で

新しい体育指導員が 決まりました

5月1日付で新しい体育指導委員を委嘱しました。

氏名 遠山要三さん(旭南) 主な分野 体育一般(教員)

主な仕事は、軽スポーツなどの実技の指導・助言や、町の体

育スポーツ普及振興の企画・推進です。

なお、3月末に辞任された高山順元さんは体育指導委員として十三年間、町の体育・スポーツの振興のため活躍されました。長い間ご苦労さまでした。

平成八年の新成人 あつまれ〜!

社会教育課Ⅱ

一生に一度の成人式!「こんなことをやりたい」と一人で考えている人はいませんか。

楽しく、思い出に残るものにするため、主役であるあなた自身が成人式のイベント企画などをやってみませんか。

「平成8年手作り成人式の会」を結成したいと思えます。お祭り好きの人、パワーのある人、成人式を夢見ている人、ぜひ参加してください。

興味のある人は説明書を送りますので、8月18日(金)までに社会教育課 ☎282-1221へ電話をください。対象は来年度成人式をむかえる人です。

原爆被爆者の遺族に 特別葬祭給付金が 支給されます

対象者 被爆者手帳を所持されている人で、被爆された配偶者・子・父母・孫・祖父母または兄弟姉妹の方を葬祭料制度の対

象となる前に亡くされている人に対して支給されます。

※葬祭料制度の対象となる前とは、昭和20年8月6日または9日から昭和49年9月30日までの間です。ただし、一部、対象とならない場合があります。

支給額 支給対象者(請求し認定された人)一人に対して一律十万円(二年償還の記名国債により交付します)

請求期限 平成9年6月30日まで(期限を過ぎると請求を行うことができません)

問い合わせ 福岡県保健環境部健康増進課老人保健係 ☎092-622-0716へ

「お盆休み中の 急病は…」

診療科目	場 所
内科 小児科 診療時間 9時~17時	8月13日~15日 選賀・中間休日急病センター 水巻町下二 ☎201-9999
歯科 診療時間 10時~17時 (事前に連絡が 必要です)	8月13日 日高歯科医院 中間市垣生通ヶ浦 ☎245-3915
	8月14日 松尾歯科医院 選賀町広渡 ☎293-3355
	8月15日 藤井歯科医院 中間市鍋山町 ☎244-7155

(急患時の問い合わせテレホン) 選賀郡消防署 ☎293-1231

終戦当時の引揚者の方へ
―通貨・証券などを
お返ししています―

税関では、お預かりしている
 次の通貨・証券などをお返しし
 ています。

◎終戦後、外地から引き揚げて
 きた人が、上陸地の税関・海運
 局に預けた通貨・証券など。

◎外地の集結地において、総領
 事館などに預けた証券などのう
 ち、日本に送り返されたもの。

※返還の申し出は、本人だけで
 なく、家族でもできます。

問い合わせ 門司税関総務部関
 税広報官(〒801、北九州市
 門司区西海岸1丁目3-10) ☎
 332-8333へ。

大丈夫ですか？

大雨や台風への備え

―遠賀郡消防署―

家の周りに吹きとばされそう
 な物はありませんか？雨戸、か
 わら、雨どいなどは大丈夫です
 か？家の前の排水溝は詰まった
 りしていませんか？

普段からの整備が、被害を最小
 限に食い止めることにもなります。

学校給食調理員の

パートを募集します

勤務場所 町内各小学校
 勤務時間 8時15分から16時45
 分まで

募集人員 数人
 応募資格 20歳から45歳までの
 健康な人。調理師の資格はいり
 ません。

申し込み 教育委員会学校教育
 課へ8月18日までに本人が履歴
 書を持参してください。

岡垣サンリーアイ
臨時職員を募集します

職種 図書館事務および一般
 事務の補佐

資格 図書司書

募集人員 一人

雇用期間 平成7年10月1日か
 ら平成8年3月31日まで(原則)

賃金 日給六千五百円。健康保
 険・雇用保険ほか加入。

勤務時間 9時30分から18時ま
 で・10時から18時30分まで(土
 ・日・祝日勤務できる人)

締切り 8月末日までに履歴書
 を提出。書類審査後、面接日を
 通知します。

問い合わせ・応募先 岡垣サン
 リーアイ管理公社 ☎282-1
 515へ

福岡教育大学公開講座
『南極の科学』を受講
してみませんか

南極地域の自然と環境について
 最新的话题を提供し、地球の歴史
 ・環境問題について興味と理解を
 持っていただくための講座です。

とき 8月24日(木)・25日

(金)の二日間

ところ 福岡教育大学・自然科
 学棟

対象 高校生以上の一般の人

受講料 五千七百円

問い合わせ・申し込み 8月18

日(金)までに福岡教育大学教

務課教務係 ☎0940-35-

1233へ

なお、受講申込書は教育委員会

社会教育課にもあります。

緑のオーナー募集

―直方営林署―

直方営林署では、緑のオーナー
 を募集しています。この制度は
 みなさんと国有林の間で、育成
 途上のスギ、ヒノキなどの人工
 林について、成林し伐採するま
 での間、共同で育て、契約で定
 めた時期に立木を販売してその
 収益の分配を受ける制度です。

募集期限 9月19日まで
 募集箇所
 住 所 嘉穂郡筑穂町大字内住
 内住山国有林 15ぬ林小班
 ※近くにはゴルフ場や梨果樹園
 があり、静かな農山村地帯です。

面積 三・四四アール
 樹種 スギ・ヒノキ
 林 齢 三十二年
 契約期間 十九年
 契約金額 一口、五十万円
 問い合わせ 直方営林署「緑の
 窓口」 ☎09492-6-40
 41へ

若さと情熱、
待っています
自衛官募集

自衛隊では、

来年4月入隊の陸
 海・空自衛官を募集しています。

資格 高校生(見込み)から
 27歳未満の男女(一部21歳未満)

受付期間 7月1日から9月中
 旬まで

試験種類 防衛大学・航空学生
 ・看護学生・曹候補生・曹候補

士・二等陸海空士

給与 初任給十五万七千円
 (防大を除く)

※経歴・学歴加算制度あり

問い合わせ 役場窓口または、
 芦屋募集事務所 ☎223-09
 81、内線348へ

愛の心づかい

次の人々から香典返しとして
 ご寄付がありました。厚くお礼
 を申し、故人のご冥福を心から
 お祈り申し上げます。
 (7月1日受付分まで)

- ▽社会福祉協議会へ
- 岡島 雪枝様(緑ヶ丘) 66歳
- 岡島 正晴様 66歳
- 田中八重子様(吉木) 67歳
- 故田中 正志様 67歳
- 松尾 雅光様(新海老津) 79歳
- 故松尾フサエ様 79歳
- 太田陀美子様(手野) 75歳
- 故太田 孝様 75歳

「いちご畑のコンサート」
へのお誘い!!

地域音楽家の皆様に発表の場を提供
 し音楽の町づくりを企画しております。
 演奏者 入江明美 (ピアノ演奏)
 演奏会 8月11日(金)18時30分から
 19時55分まで
 曲目 小犬のワルツ、幻想即興曲、
 ほかほか
 演奏場所 岡垣サンリーアイ
 入場料 無料
 問い合わせ 岡垣サンリーアイ
 東ただ今、演奏者を募集!!!お父様に
 問い合わせてください。

- 永田 秀敏様(上海老津) 50歳
- 石橋 正大様(糠塚) 93歳
- 故石橋 一枝様 93歳
- 矢野千代一様(吉木) 64歳
- 故矢野 博子様 64歳
- 相垣 幸世様(手野) 80歳
- 故相垣 茂男様 80歳
- 友山 次男様(糠塚) 79歳
- 故友山 サツエ様 79歳
- 小西 光子様(戸切) 61歳
- 故小西 義雄様 61歳
- 森永 勇教様(東松原) 67歳
- 故森永 ミスエ様 67歳
- 野田喜美子様(糠塚) 47歳
- 故野田 均様 47歳
- 占部 正助様(新海老津) 88歳
- 故占部 ミ子様 88歳
- 阿部伊喜男様(門司区) 90歳
- 故阿部ユキエ様 90歳
- 老人クラブ寿会へ
- 太田陀美子様○石橋 正大様
- 稲垣 幸世様○友山 次男様
- 占部 正助様

ひと動き

(6月末)

人口 ……29,320人(+7)
 そのうち156人は外国人
 女性 ……15,363人(+6)
 男性 ……13,957人(+1)
世帯数 ……9,599世帯(+9)
 そのうち69世帯は外国人世帯
 ()内は前月との比較
 出生 ……16人 死亡 ……21人
 転入 ……70人 転出 ……58人
 まちの広さ ……48.51km²

町内の交通事故状況(人身)

	5月		昨年同期	
	5月	5月	5月	5月
事故件数(件)	7	57	6	39
死亡者数(人)	0	1	0	1
重傷者数(人)	2	7	1	2
軽傷者数(人)	5	50	5	37

救急・火災概況 6月分

救急	出動件数	48件
	搬送人員	46人
火災	出火件数	1件
	り災世帯	5世帯

火災の問い合わせ
遠賀郡消防本部
☎ 293-3921

◆もうじき8月15日を迎えます。今年は、終戦50周年の節目の年であり、改めて、戦争の悲惨さを顧み、平和の尊さを再認識する意義深い年です。そこで風化しつつある「戦争」を後世に語り継ぐため戦争体験の特集を組みました。
 老人クラブ連合会や遺族会などの団体に寄稿のお願いをしたところ、たくさんの寄稿がありました。原稿を借ってくださった方々にこの場をお借りしてお礼申し上げます。また、多数のため、すべての方の体験記が掲載できませんでしたが、心をこからお詫び申し上げます。
 青春時代を戦争で踏みにじられた方々、戦争で火を亡くし、苦労して子どもを育て上げた話など、言葉では言い尽くせない想いが、行間から伝わってきて、原稿をワープロに打ち換えながら何度も胸が熱くなりました。人と人が殺し合う

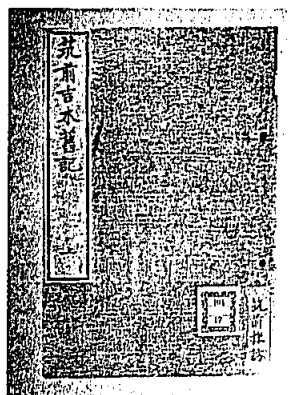
新岡垣風土記

古文書で探る刀狩り

写真は、寛政元年(一七八九)に吉木の町医者・宮崎恒章が著した「筑前吉木旧記」である。現存する町内最古の書籍で、上巻に吉木区の伝承や記録、中・下巻に吉木各家の系図を収めている。巻末に「右、筑前国、遠賀郡吉木村三輪久廿蔵本、明治二十年八月内閣修史局編集久米邦武、採訪明治二十年一月謄写了」とあり、吉木の造り酒屋「鐘崎屋」三輪家の蔵書を、現在の東大史料編纂所が転写した写本である。

著者の宮崎恒章は、今の遠賀郡医師会長に相当する職の名士だった。宮崎家は、代々医者で当主は格菴を名乗り、恒章の代から吉木に開業定住している。
 吉木旧記は、それ以前の「瓜生旧記」や「原氏年譜」を底本としており、中世末期の混乱した状況

下の吉木をかなりリアルに書き留めている。
 そこで今回は、その記述により、「湯江老伝」に慶長五年、筑前中納言殿御代に吉木村在宅の衆。二万石、鬼塚殿、今の堀屋敷。一万石。上股助右衛門、今の善三郎屋敷。御代官、横田太郎右衛門殿、今の徳兵衛屋敷。



関ヶ原立の時、此衆芦屋より出船。其時、御代官太郎右衛門殿も前浜まで立立申さるるに付、郷中の庄屋、百姓、槍、長刀を持、濱にて御代官を引包み、是非なく村へ引戻し、田島の御免を思ふように引下げ証拠を取り、納置処の米取り戻す。」とある。

これを要約すると、豊臣政権の末期、筑前の領主は小早川秀秋であった。その家臣で大名級の重臣である鬼塚、上股、横田氏が吉木村に屋敷を構えていた。
 さて、慶長五年(一六〇〇)の関ヶ原の合戦で、西軍から東軍に寝返り、東軍を勝利に導いた小早川秀秋は、備前岡山へ転封となった。吉木在住の家臣も芦屋から船で引越した。代官の横田氏も吉木の浜から出発した。その時、吉木の百姓衆が槍や刀で武装して、代官を威嚇して年貢引き下げの書面を取り、年貢米を蔵から取り戻した。というのである。
 歴史では、天正十六年(一五八八)豊臣秀吉の刀狩りで、農民は武装解除され、兵農分離が急速に進み、封建態勢が確立していったはずである。旧記の武装一揆の伝承は、通史に反するが、この伝承の他にも武器を携えた逸話を多数載せており、事実のようである。
 岡城を拠点とする麻生家臣団の根拠地であった吉木の地域性を考えれば、うなづける話である。
 吉木の武士団は、吉木麻生氏の滅亡後、宗像氏に仕えた。その宗像氏も滅び、再び主を失った。しかし、吉木の衆は、豊臣から徳川への安定政権が続くなど知る由もなく、再び馬上の人となる夢を見ただであろう。だから、刀狩りにも容易に応じず、刀剣を隠し、武士の郎党等になり、時機を待ったのである。だが、「一所懸命」の時が、再び来ることはなかった。
 しかし、その気風は子孫に脈々と受け継がれ、今日の吉木があることは、歴史が証明するところである。

羽山 健一

後編 集記

戦争。それはだれもが、國家からの被害者なのです。そんな無意味な、愚かなことは二度と起こしてはならない。そう改めて強く感じました。同時に、今の平和な世の中に感謝し、この平和を守り続けていくことが、私たちの義務だと感じました。
 ◆さて、海がめもかえる町〜岡垣〜での海がめの産卵を撮影しようとして一般の人や役場の有志で「海がめ産卵調査隊」を作り、連日・連夜、海岸線のパトロールを続けていますが、7月11日現在、まだ、海がめの産卵は確認されていません。この広報おかがきかみなさんの手元に届くころには、海がめの産卵が確認されていることを祈りつつ、一向海がめの 待っていますよ 且がえり (神谷)

10月1日は 国勢調査

10月1日、全国一斉に、5年に一度の国勢調査が行われます。日本に住んでいるすべての人が対象です。ご協力をお願いします。

国勢調査

平成7年10月1日
 総務庁統計局 福岡県岡垣町
 ありのまま あなたの答えが 国の基礎